

総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
安全目標の検討小委員会（第24期・第2回）議事録

1. 日時 平成30年6月14日（金） 9：30～12：00
2. 場所 日本学術会議
3. 出席者 （敬称略）

【委員】 成合英樹、柴山悦哉、須田義大、田村兼吉
野口和彦、松岡 猛、中村昌允

【オブザーバー】全日本空輸(株)安全推進センター安全推進部 森岡日出男氏

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

議事録案に対して、委員による修正案の確認をメールで行うことを条件に、成合委員長に一任することとした。

(2) 今期の進め方

野口副委員長より、今期は、工学システムの安全目標に取り組んで3期目になるので「提言」としてまとめること、並びに今期の課題が示された。

<今期の課題>

(1)安全目標の使い方の具体化と実用性の検証

- ・規制と安全目標の関係の明確化
- ・社会安全目標と事業安全目標との関係の明示
- ・行政、事業者、市民の立場による安全評価の課題と有効性の検討

(2)現状リスクの分布とリスク基準の関係の検討

(3)安全目標の具体化と活用の仕組み

- ・安全評価の実施の具体的な仕組みの構築
- ・総合評価の具体化

(3) 安全工学シンポジウム

松岡委員より、資料4に基づき安全工学シンポジウムについて説明され、当日の進め方について確認した。各発表者の発表時間は15分

(1)発表

① 今期の方針

「工学システムの社会安全目標の実装に際しての課題」野口和彦

② 去年の深化分野

- ・プラント分野の安全目標 中村昌允
- ・発電用原子炉の社会安全目標の基本 成合英樹

③ 今期のテーマ分野

- ・鉄道分野の安全目標 須田義大
- ・情報分野の安全目標 柴山悦哉
- ・製品安全における安全目標 向殿政男

(2) パネルディスカッション

会場からの発言も期待する。

(4) 個別分野の安全目標

今回は「航空分野の安全目標の考え方」について、田村委員の紹介で、全日本空輸(株)安全推進センター安全推進部森岡日出男氏より説明していただいた。

資料2「航空分野の安全目標の設定と目標達成に向けた取り組み」

ANAの安全管理を中心に、ICAO (International Civil Aviation Organization: 国際民間航空機関) の考え方を含めて、航空分野の安全管理の考え方が紹介された。

<主な質疑>

- ・重大事故の考え方

→ 死亡事故発生率、並びに 全損事故発生率を「ゼロ」にする。

<最重要目標>

- ・死亡事故発生率 0 件/100 万回
- ・全損事故発生率 0 件/100 万回
- ・ヒヤリハット報告の対象は、労働災害か？
→ 全トラブル（設備トラブルを含む）件数を対象としている。
- ・事故は着陸時に多いと考えるか？
→ 着陸時には、横風や突風など安全に影響を与えるスレットが比較的多く、一般的に事故が多い。
- ・安全の対象としては、乗客の安全を第一に考えているが、労働者の災害はどの様に考えているか？
→ 労働者の災害についてもリスクマネジメントの対象として捉えている。
- ・航空機における安全の基本は、「Safety Before Schedule」であるが、利用者の立場からは、「ON TIME」も重要な価値である。定時運航を維持するには、空港整備等周辺の事情を含めて、どう考えているか？
- ・航空安全当局と事業者（業務提供者）との関係
→ 航空安全当局は、SMS (Safety Management System) 規程を策定し、業務提供者に安全に関するリスク管理の実施を求める。また、毎年、各業務担当者の安全指標及び安全目標値の妥当性を確認する。

なお、「プラントの安全目標」は、次回の委員会で検討する。

(5) 次回 安全目標の検討小委員会の開催

日時 7月25日(木) 14:00~17:00

場所 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター 812号室

議題

1. プラント分野の安全目標の考え方(化学プラント) 中村昌允 委員
2. 安全工学シンポジウムのディスカッション

5. 配付資料

資料1 前回議事録

資料2 航空分野の安全目標

「安全目標の設定と目標達成に向けた取り組み」

資料3 化学プラントの安全目標

資料4 安全工学シンポジウム(OS10 安全目標)

以上